

media SPICE!

www.media-spice.com



昨年春、パリ20区にLa Boiticaという小さなコンセプトショップをオープンしたアンツナ・コバドンガさんはその材料見直しにある。元は工場だったスケルトン状態の建物の一部を10年前に購入。この場所を見つけた時からずっと心に決めていたパシオ・中華と、光が存分に入る明るい家という基本コンセプトを実現したロフトだが、アンツナさんによれば、「全部自分たちで作っているから、まだまだ工事中なのだそうだ。そのとおり、白と赤と黒という配色が効いたキッチンも実は購入から半年も経って完成した。ダイニングのフローリングをセメントに張ったのは2年前。一番最近の仕事は、旦那さまがどうしても大画面テレビで見たいと希望するもので、「テレビを見ない時は隠せる」ことが前提と、壁にスライド式の額を大工さんにしつらえてもらった。2階と3階にある部屋の構成も当初からモジエール式に、将来の利用方法によっては部屋の使い方を自由に変えられるよう考えている。2人で暮らし始めてから10年の間に2人の子どもが家族に加わり、スペイン人のアンツナさん、カナダ人の親を持つ夫、2人娘には日本人と結婚した人もいて、この家には国籍豊かな大勢の親戚がいつも集まっている。彼らはここを見た瞬間にそんな大家族が集まる環境を想像していたのだろうか。

アンツナさんは元々、洋服のデザインを勉強するためにパリにきた。キャリアのスタート時に自分のブランドを立ち上げ、その商品を売るショップをスタートしたことがある。ところが、大勢のクリエイターにパリで出会い、また入った作品を自分の店に置いて販売するうち、自宅をギャラリーがわりにしたり、彼らを海外のお店に紹介するエージェントとして働くようになった。「きれいでも、よく完成されていて、オリジナルなものが好き。そんな作

品を創る彼らと働けるのはとてもラッキーなところだ。その言葉どおり、自宅にもお店にあるものと同じ家具や装飾品が多くある。ダイニングに置いたオレンジ色の家具、足の形をイメージしたアイアンの本棚、低いテーブルに置いたバッグは「バスケット・ボールをリミエックしたものだ」。作品のひとつ一つを紹介し始めるとアンツナさんの家はイキキとしてくる。



Antuna Covadonga
アンツナ・コバドンガ
住所: La Boitica
住所: 89, rue de Bagnolet 75020 Paris
TEL: +33-(0)1-4372-0642
covadonga@la-boitica.fr
www.laboitica.fr



デザインしたホテル・ママー・シエルトー (Mama Shelter) とも近く、しかしこの町に古くから暮らす人々には移民家族もたくさんいる。「近所の人からりと入ってきた時に買いやすい値段のものも揃っていますよ。パリを旅した時にはぜひ寄ってみて。」

本ページに掲載のダイニング、キッチンの前にある収納棚のデザインはアンツナさんと建築家フランソワ・ルビエによっておけるスペース。手前のオレンジのテーブルは建築家アンツナさんとフランソワ・ルビエによっておけるスペース。アンツナさんのママはスペインで料理教室の校長。写真を撮って見ると大抵の料理教室だとか、お部屋のデザインにはアンツナさんと建築家のフランソワ・ルビエによっておけるスペース。アンツナさんとフランソワ・ルビエによっておけるスペース。アンツナさんとフランソワ・ルビエによっておけるスペース。